

雅風会たより

第3号



目次

- ◆ はじめに
- ◆ 散華「一人一佛」
- ◆ 川村先生の作品から - 孔雀明王 -
- ◆ 三回忌、早いものですね
- ◆ 光背の千体仏
- ◆ 仏像彫刻教室から- 仏足編 -
- ◆ あ・ら・か・る・と

2021年1月15日 編集・発行 仏像彫刻「雅風会」

埼玉県所沢市狭山ヶ丘 2-2090

URL: <http://www1.cts.ne.jp/~h-1butsu> (川村雅則佛像彫刻記念館)

◆ はじめに

「雅風会たより」第3号発行の運びとなり、皆様のご厚情の賜物と心から御礼申し上げます。

年が明けてもコロナの感染は容赦なく続き、とうとう緊急事態宣言の再発出となりました。一日も早く感染拡大が鎮まり、穏やかな日々に戻りますようにと願いながら、記念館では感染防止対策を怠ることなく、作品展の準備を進めております。

開催まで3ヶ月を切りましたが、皆様から作品出展のご協力や温かい励ましの言葉をいただき、川村先生が繋いでくださったご縁に感謝と感動と・・・、本当に頭が下がる思いです。コロナ禍が続いている状況から、皆様と楽しく集う会を開けないことは誠に残念ですが、「状況に応じて出来る範囲で作品展を実施する」方向で、引き続き準備を進めてまいります。先が見えず試行錯誤しつつも、会員の方から教えていただいた言葉、

「さしあたる ことのみばかり おもへかし かへらぬむかし しらぬゆくすえ」

を思いおこし、目の前にあることを一つずつ進めてまいります!!

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

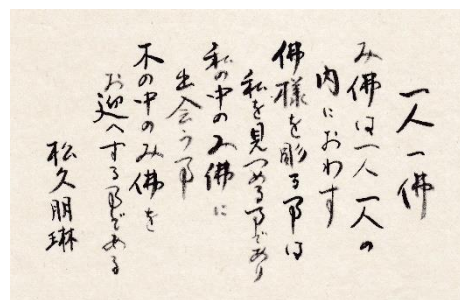
◆ 散華「一人一佛」



昨秋のある日のことです。配達された封書の中に一枚の散華、そこには賛助会員のSさんの筆になる「一人一佛」ということばがありました。

一文字一文字から、Sさんの「一人一佛」への熱い想いが伝わってきます。朋琳先生の右のお言葉も添えてくださいました。

散華は品川教室に大切に飾っております。



◆ 川村先生の作品から - 孔雀明王 -



川村先生が孔雀明王を彫られたのは2001年。当時先生は資料集めの傍ら、何度も動物園に足を運ばれていました。そして、「私が行くと孔雀はいつも羽を開く、飛ぶこともある」と自慢げにお話されてきました。そんな先生が孔雀明王を出品された時の感想が、宗教芸術院「連生」第17号2002年1月「38回展に寄せて」に掲載されていますので、ご紹介します。

「・・・また、今回は、私にとって特別な思い出となる美術展になりました。第三十八回展の宗琳先生の出展作品、大作の『孔雀明王像』を私が初めて拝見したのは、平成元年の美術展のときでした。

宗琳先生独特の、華麗で、豪華な作品に感嘆すると共に、「私もいつか自分独自の孔雀明王を造り上げたい」という思いでおりました。

それから十二年後、初めて孔雀明王を出品作品として手がけることにしました。小品ですが、私なりの作風が出せたと思っております。

今回の美術展で、宗琳先生の出品作が私と同じあの孔雀明王と知った時、偶然とは思えない不思議な巡り合わせを感じました。これからも、宗琳先生から受けた多くの教えを生かし、創作に励んで行きたいと心掛けております。」



関学支部長 川村 雅則さん
三十八回展を迎えた宗教美術展も、当支部では二十六名の会員さんが出展して下さいました。毎牛、宗部や奈良のお寺巡りを兼ねて、宗教美術展に出品参加できることを楽しみにしている会員も、少しずつ増えている様に見えます。また、今回は、私にとって特別な思い出となる美術展になりました。

◆ 三回忌、早いものですね

未だコロナ禍が続く中、命日の11月17日は、少人数で静かに川村先生を偲び、来春に作品展の開催を予定していることを報告しました。

先生が他界されてから丸2年。仏像彫刻の深さに突き当たるたびに基本の大切さに行き着き、先生が遺された作品にお手本がたくさん詰まっていることに気付かされます。勝手気ままをしないで一生懸命彫り続ければ、いつかきっと自分の仏様に出会うことができるのでしょうか。仏像彫刻のご縁に感謝し、今年も手を合わせました。



◆ 光背の千体仏（佐仲 努）

京都清凉寺の阿弥陀三尊像をご覧になった方は大勢おられると思う。



中心の阿弥陀如来本体の像高は約五尺八寸（178センチ）、光背の高さ約九尺八寸（299.2センチ）、台座の高さも入れると総高十二尺近くになる堂々たるお像で、脇侍の観音、勢至菩薩を従えたそのたたずまいはまさに圧観というほかない。

この阿弥陀如来の像高を七寸（約21センチ）、光背の高さを一尺二寸五分（約38センチ）に縮めて彫ろうという、大それた思いにとらわれてしまった。

実物の約八分の一くらいであるから、光背に付けられた千仏は、一体が8~9ミリにしかならない計算である。

本体については、脇侍も含め、中央公論美術出版社の『日本彫刻史基礎資料集成』という本の中にくわしく出ているが、光背に関してはあまり触れられていないので、他の資料で見た写真をたよりに、とりあえずできるかどうかの目途をつけようと、光背の千体仏から彫り始めた。

資料の写真がさほど大きくなかったためはっきりと見えなかったが、清凉寺に行ってみると、この千体仏には、当然のことは云え、お顔も彫ってあり、一体一体に光背も付いている。しかし、僅か8~9ミリの仏を同じように作ることはどうも無理と、お顔の目鼻は省略し、光背も付けないことにして、千体を作り上げた。

それで何とかやれるなと云う気になって、川村先生にこの三尊像の写真を見せて、これをやりたいと云うと、案の定、千体仏に顔を彫るのかと聞かれた。私は「とてもそこまでは無理です」と答えたが、内心川村先生ならおそらくやるに違いないと思った。この阿弥陀三尊像は、第五十六回の京都展に出したが、その前年に川村先生は急逝されて、見ていただくことはできなかった。

先生が見たらなんと云われたか、聞けなかったのが残念である。



なお、これは余談だが、京都展でこの像を見てくださっていた数人のご婦人から、千体仏をどうやって彫ったのかと聞かれたので、手許に残っていた実物をお見せして説明すると、それを欲しいと云われた。何にするのですかとうかがうと、財布に入れておくといふことがありそうだと云われ、そんなことあるはずがないと思ったが、お望みなので差上げた。

◆ 仏像彫刻教室から - 仏足編 -

今回は、教科書（「仏像彫刻のすすめ」（松久朋琳著））に載っている「聖観音のおみ足（足の幅8分）」についてです。この大きさは像高一尺五寸の足の寸法に相当します。一尺五寸の全体像を彫ることは色々な面において大変な力が必要です。この足を彫ることによって、この上には一尺五寸の像が存在することを想像することができ、いずれこの大きさの全体像を彫ってみようという気がわいてくるかもしれません。



教科書に指幅は親指から小指へと、順に小さくしてと書かれています。あまり意識しすぎると指幅を分けるのが難しくなってしまいますので、最初に全体の幅を五等分した後、親指を少し大きく、小指を少し小さくし残りをほぼ三等分にしてその後、親指から小指へと順に小さくなるように微調整すると、比較的楽に指を分けることができるような気がします。

足の指を彫るときに気を付けるところは、指先の厚みは指の幅より薄いということです。また、指の付け根とその先の指部分は自然に指が寄り添っているよう丁寧に彫りましょう。

その他の細部の彫り方については教科書をよく読んで、習得しましょう。仕上げの工程に入るときは彫刻刀を研ぎ直して、薄皮を剥ぐように表面が滑らかにツヤの出るように彫ると綺麗な仕上がりになります。

（全体像を手掛けるようになりますと、足の指までは注意が行かなくなってしまうがちですので、気を付けて丁寧に彫りたいところです。）



（文責：竹内）

*** あ・ら・か・る・と ***

◆ 「仏像彫刻作品展 ～一人一佛 川村雅則師を偲んで～」開催のお知らせ

2021 4/2（金）～4/4（日）

午前11時～午後6時（最終日は午後5時まで）

新型コロナウイルス感染予防に細心の注意を払い開催します！！

会場でのマスク着用などお手数をおかけしますが、ご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

場所：オレンジ ギャラリー（Orange Gallery）
豊島区西池袋1-9-11-103

アクセス：池袋駅 西口（南口） 徒歩2分

主催：宗教芸術院支部 雅風会

共催：川村雅則佛像彫刻記念館

連絡先：090-2486-0298（雅風会 岩場）

会期中会場では、「消毒、換気、マスク着用、適切な距離を保ち、会話は控えめ、飲食は禁止」など、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、ご入場いただく人数も少数に保ちながら感染予防に努めます。コロナ禍の状況下での作品展開催になるため、誠に残念ですが、休憩場所の設置や懇親会の開催は控えさせていただきますことといたしました。

ご都合の良い時に、お立ち寄りいただけましたら幸いです。

◆ 記念館の新型コロナウイルスの感染防止対策について

当面の間、記念館へ来館（見学）される時は、お手数ですが事前に記念館（tel:04-2907-3903）までご連絡ください。また、ウイルス感染予防及び拡散防止のため、マスクの着用にご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。

◆ 第58回仏教美術展

日時：2021年11月4日（木）～11月7日（日） ※4日は会場準備

